



TITLE:

低温 : 低温における諸研究(サブゼミ, 1986年度物性若手夏の学校の報告)

AUTHOR(S):

森, 夏樹; 清水, 照久; 斉藤, 俊一

CITATION:

森, 夏樹 ...[et al]. 低温 : 低温における諸研究(サブゼミ, 1986年度物性若手夏の学校の報告). 物性研究 1987, 47(4): 378-379

ISSUE DATE:

1987-01-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92378>

RIGHT:

「散逸力学系のカオス」

池 上 高 志 （東大・理）

「セル・オートマトンの統計物理」

24 日 武 本 真 二 （東大・教養）

「ハミルトン系のカオス」

篠 本 滋 （京大・基研）

「神経ネットワークの数理モデル」

今回は、4 人の発表者の方々に、カオスについての初歩的な事柄から最近の hot な話題まで、広範囲にわたって、詳細に初心者にもわかるように解説していただきました。両日とも、参加者数は 20 人程度でした。参加者と発表者との議論が、あまり活発でなかったのがおしまれます。

最後に、お忙しいところを講演を引き受けてくださいました発表者の方々にお礼を申し上げます。

（世話人 茨城大・理 寺門弘訓）

サブゼミ 低 温—低温における諸研究

今回は、森先生に超伝導薄膜全般に関する講義をしていただき、発表者には、早稲田大学の清水さんと、鹿児島大学の斉藤さんに、超伝導薄膜に関する研究を具体的に発表していただいた。講師、発表者及び題目は次のとおりである。

23 日 森 夏 樹 （小山高専・電気）

「超伝導薄膜」前半

清 水 照 久 （早稲田大・理工）

「JTO 薄膜の超伝導」

24 日 森 夏 樹 （小山高専・電気）

「超伝導薄膜」後半

斉 藤 俊 一 （鹿児島大・工）

「準安定超伝導薄膜の生成及びその特性」

参加者数は、初日 30 人程で、2 日目は 20 人程に減った。

講義及び発表に関する質問は、毎回 2～3 人程であり活発とはいえなかった。しかし初日のコンパは、たいへん盛りあがった。今回は、講義の時間が長く、発表の時間が短かったもので、出来れば発表者を多くして講義を短かくすべきであった。

最後に、講演を引き受けて頂いた講師、発表者の方々、また、たいへん御迷惑をおかけした準備局の方々に、お礼を申し上げます。

(世話人 日大・理工 加藤政利)

サブゼミ アモルファス—準結晶とアモルファス—

例年通り、1 日目に講師の木村先生に準結晶の講義をしていただき、2 日目に若手研究者の方に現在研究されていることを発表していただいた。講師、発表者及び題目は次のとおりである。

講 師 木 村 薫 (東大・物性研)

「準結晶」

発表者 西 谷 滋 人 (京大・工)

「準結晶の結晶成長」

松 石 清 人 (筑波大・物工)

「非晶質半導体における低波数吸収と中間距離秩序」

野 崎 龍 介 (早大・理工)

「ポリ酢酸ビニルのガラス転移と分子運動」

伊 庭 幸 人 (東大・教養)

「イジングモデルとガラスクエンチとランダムネスをもたない場合」

木村先生には、準結晶を結晶及びアモルファスと比較しながら、準結晶の概念、構造、電子状態と物性について講義していただいた。参加者数は 1 回目に 35 人程であったが、2 回目は 15 人程に減った。最後に、講演を引き受けて頂いた講師、発表者の方々にお礼申し上げます。

(世話人 京大・理 池本弘之)